

群馬の近代産業のめばえ

～ 渋沢栄一・渋沢一族との関わり～

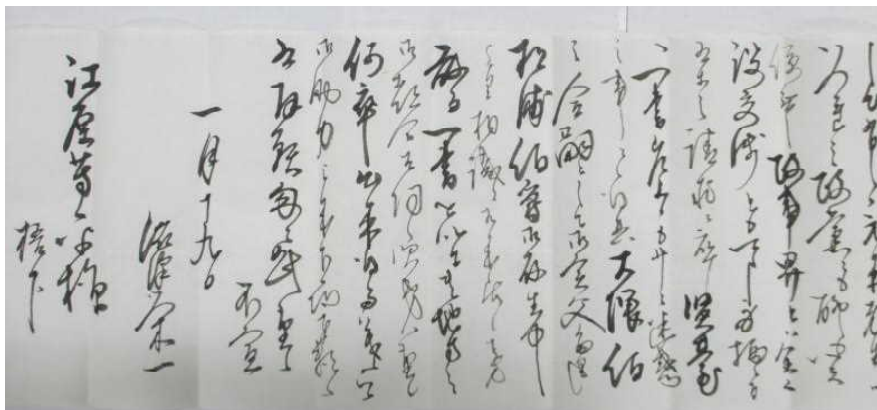
展示期間 令和3年8月3日（火）～令和4年2月27日（日）

今から150年前の明治4（1871）年10月28日、第1次群馬県が誕生。それと前後し、群馬県内では蚕糸業をはじめとするさまざまな近代産業が勃興しました。前橋藩営製糸場や官営富岡製糸場における器械製糸の導入、官営新町屑糸紡績所における絹糸紡績の操業、高崎(旧片岡郡)での石炭採掘や煉瓦製造、下仁田(中小坂)での洋式製鉄。

本展示では、幕末から明治前半までの特色ある産業発展の一端を、上武国境に生を受け、NHK大河ドラマ『青天を衝け』の主人公、日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一や渋沢一族と群馬との関わりも交えながら、当館収蔵の古文書や歴史公文書より紹介します。

1. 渋沢一族と上州・群馬

⑧ [江原芳平宛の渋沢栄一書簡] 大正4（1915）年1月19日



前橋市・江原毅家文書
P0113 No.1097-1

(前略)

いつれの政党とも聊も関

係無之、政事界とハ全く

没交渉とも可申身柄二付、

右等之請求ニ応し賢台

へ一書差上候も、サニ迷惑

之事ニ候得共、大隈伯

之令嗣として御実父たりし

松浦伯爵御存生中

より相識り相成居候旁

敢而一書を以て貴地方之

御都合相伺候次第第二御座候

何卒出来得る義候ハ、

御助力被成下候様奉頼候

右拝願勿ニ如此御座候

不宣

一月十九日

渋沢栄一

江原芳平様

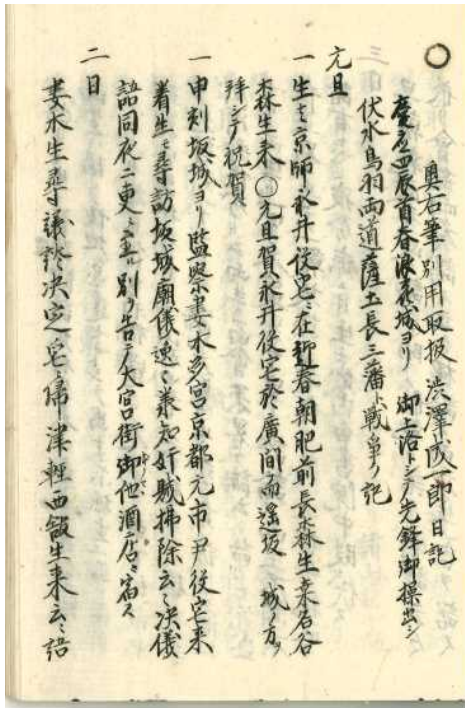
梧下

(後略)

これは、大正4年の衆議院議員総選挙に際し、大隈重信首相の養子信常が大隈伯後援会から前橋選挙区で出馬した際の舞台裏を語る重要史料です。渋沢栄一自身は、政党には関わらない姿勢でしたが、大隈信常からの依頼で、今回は特別に長年懇意にしていた江原芳平（第三十九銀行頭取、前橋商工会議所初代会頭）に対し信常への支援を頼むことなどが書かれています。選挙の結果、現職の竹越与三郎（立憲政友会）が落選し、信常が当選しました。なお関連して大隈信常・大浦兼武・竹富時敏から江原への書簡も、江原家文書に残されています。

⑥慶応記聞三十二 * 渋澤成一郎 日記（鳥羽・伏見の戦い従軍記）

慶応4（1868）年2月



これは、赤堀伴七の記録「慶応記聞」に書写された日記です。一橋慶喜が第15代将軍になると、渋澤栄一と渋澤喜作（成一郎、栄一の従兄）は幕臣となります。栄一は、徳川昭武（慶喜弟）に従うためパリ万博使節団に加わり渡欧します。一方、成一郎は慶喜の奥右筆となります。この日記は、成一郎が慶応4年1月に起きた鳥羽・伏見の戦い、前後の状況を詳細に記したものです。戦いに敗れた慶喜が大坂城から江戸へ軍艦で脱出し、周囲が驚愕した様子も詳細に記されています。なお後年、喜作は前橋にあった第三十九国立銀行の筆頭株主となるなど、群馬とも深い関わりを持ちます。また、明治35年（1902）に三十九銀行が経営危機になった際に、同行頭取の江原芳平とともに第一銀行の渋澤栄一のもとを頼っています。

伊勢崎市・赤堀恒雄家文書 P8902 No.96

2. 製糸業の近代化 ～前橋製糸場・富岡製糸場・新町屑糸紡績所～

⑰速水堅曹履歴抜萃 甲号 自記 明治期（年次不詳）



（前略）
 十月十九日、民部省ヨリノ達ニ拠リ富岡二行、
 地理権頭杉浦讓・尾高庶務小佑并外
 （惇忠）
 人ブリユナ氏ニ面談、新建製糸場ノ利害
 ヲ論ス、尾高上手ノ言アリ、同廿日出立、夕
 觀民ニ歸ル、是富岡ノ地理見分ナリ
 十月廿八日、富岡工出張ノ役々来ル、予応
 接ス
 （後略）

速水益男家文書 P8315 No.1

前橋藩では、生糸の品質向上のため器械製糸技術の導入を図り、明治3年6月から同年10月にかけてスイス人技師ミュラーの指導のもと、日本最初の器械製糸所である藩営前橋製糸所を設立しました。生糸取締役として直接設立に尽力したのが、この史料の筆者速水堅曹（けんそう）です。

最初の製糸場は「糸試験場」と呼ばれ、細ヶ沢町（こまかざわまち、現住吉町一丁目）の商家の武蔵屋を借り、7月よりミュラーの指導による技術伝習が始まりました。同年9月には、岩神村観民大渡（現岩神町）に本格的な器械製糸工場を建設し、移転しました。

新町屑糸紡績所（宮内庁書陵部蔵）

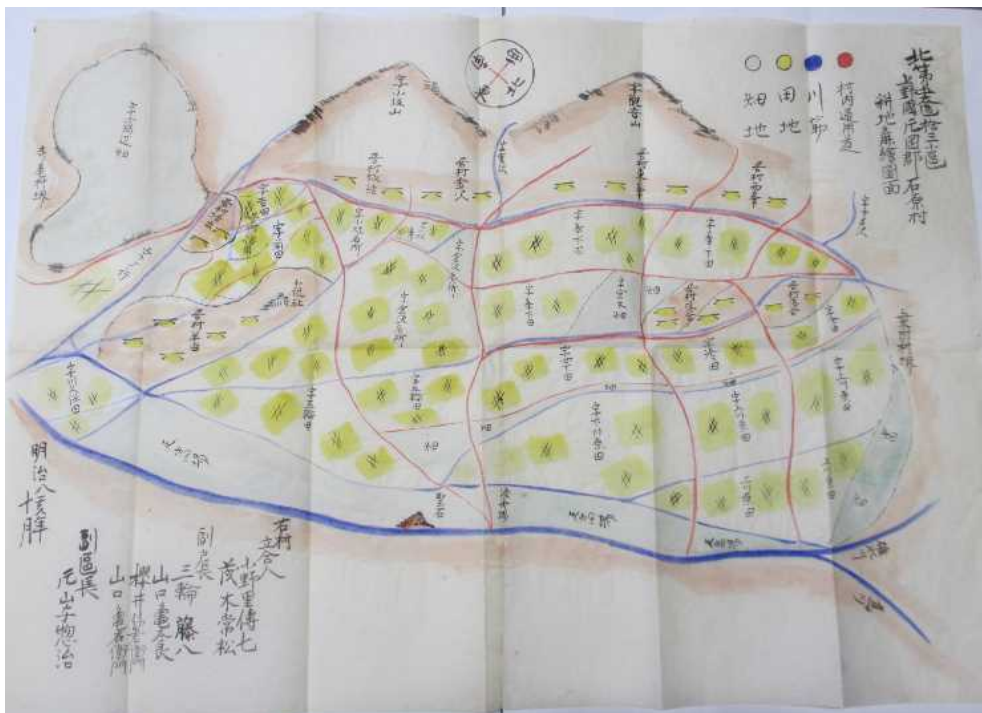


明治6年ウィーン万博で渡欧し技術を伝習した佐々木長淳（ながあつ、1830～1916）が、「日本では廃棄される屑糸・屑繭から、西欧では紡績機で絹糸ができる」と絹糸紡績工場の必要性を内務卿大久保利通に建議しました。その後、内務省が設立したのが官営新町屑糸紡績所です。同所は、日本人自らが構想から建設まで行った最初の洋式近代工場として評価されています。

3. 東京瓦斯局と鉱工業 ～高崎炭田・煉瓦工場・中小坂鉄山～

②北第五大区拾三小区上野国片岡郡石原村耕地^{あり}絵図面

明治8（1875）年10月



高崎市・片山紀道家文書 P9311 No.851-2-4

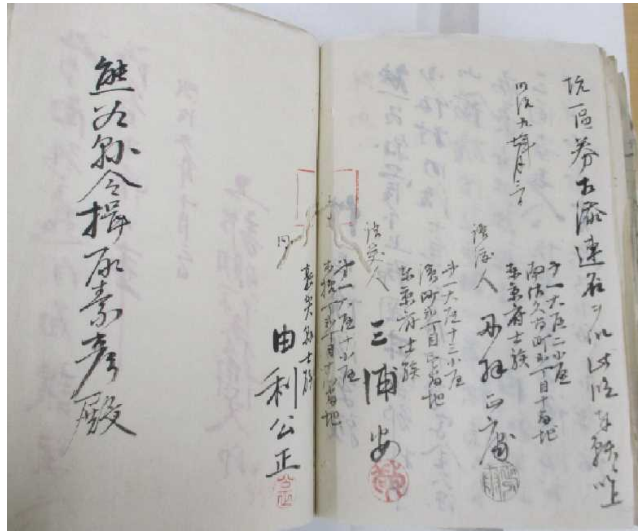
この絵図は、石原村の大まかな耕地の様子を描いた絵図で、乗附村・寺尾村との位置関係がよくわかります。地図の左端に見える「雁行沢（川）」周辺では、東京府瓦斯局（事務局長渋沢栄一）が派遣したペレグランによって、耐火煉瓦の製造に適した粘土が発見されました。これをきっかけに西村勝三の伊勢勝白煉瓦製造所が耐火煉瓦製造を開始しました。

この史料を含む片山家文書には、石原・乗附・寺尾村の石炭・煉瓦などの産業・生産に関わる文書が含まれているのが特徴です。また、多数の絵図が残されています。これは、片山家が明治時代に石原村副戸長・戸長、片岡村長などを務めたことによります。

由利公正・三浦安が共同で、丹羽正庸から金久保山鉄鉱借区（中小坂鉄山）を譲り受けることを熊谷県令楫取素彦（後の群馬県令）に願い出た文書です。

由利は、元福井藩士で東京府知事なども務め、三浦も東京府知事・宮中顧問官などを務めた明治政府の要人でした。

由利らの作った山一組は、同9年に東京府瓦斯局（事務局長渋沢栄一）からガス灯用鉄管を大量に受注し製造を開始しました。しかし負債がかさみ、経営が成り立たなくなったため、同11年中小坂鉄山は政府に買収され工部省に委譲されました。

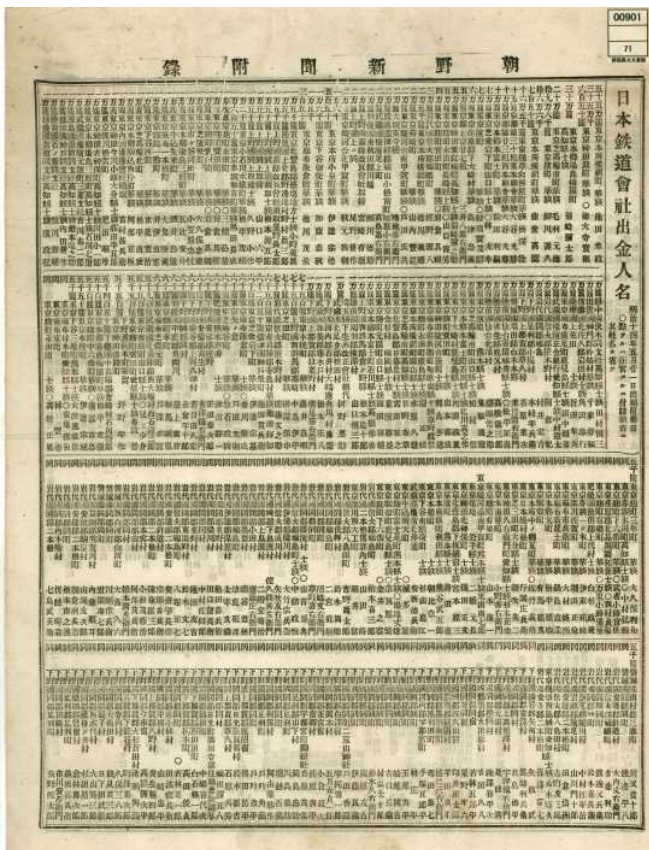


群馬県行政文書 A0181A0M 14

4. 日本鉄道会社と渋沢栄一

㉑ 朝野新聞附録（日本鉄道会社出金人名）

明治14（1881）年5月21日



この史料は、『朝野新聞』の付録として発行した日本鉄道会社への出金者（設立発起人）一覧名簿です。

55万円の池田章政（元岡山藩主、第十五国立銀行頭取）を筆頭に、華族（旧大名・公家）や士族が上位を占め、他に地方の有力者など合わせて461名が名を連ねています。宮崎有敬・星野耕作・星野長太郎など、本県関係者も多数記載されています。同社株購入の募集でも明治15年の統計では県内から多数の応募があり、人員数は全国第1位、金額が第2位になっていました。

前橋市・池田三慈家文書 P00901 No.71

〒 371-0801 群馬県前橋市文京町 3-27-26
TEL : 027-221-2346 FAX : 027-221-1628
E-mail : monjyo@pref.gunma.lg.jp



令和3年度 テーマ展示「群馬の近代産業のめばえー渋沢栄一・渋沢一族との関わりー」

令和3年8月3日(火)～令和4年2月27日(日)

No.	史料表題(古文書表題・公文書件名)	和暦年	西暦年	月日	古文書文書群名・公文書簿冊名等	請求番号・受入記号	文書番号	形態	展示形態	展示期間
①	〔養蚕・繭錦絵〕・〔繭・糸とり・生糸錦絵〕・「大奥美人養蚕ノ図(錦絵)」*彩色	明治30年	1897		坂本計三家文書	P8202	No1278・1279・1228		タペストリー	全
②	〔錦絵〕(伊太利人前橋下誘引到着の図)*軸装、彩色	明治2年	1869	5月	遠藤昌孝家文書	P0702	No3	1巻	タペストリー	全
③	〔御用留〕(伊太利公使来県・国産生糸製作ほか)	(明治2年)	1869		中島正家文書	P08814	No56	1冊	複製	全
1 渋沢一族と上州・群馬										
④	明治10年上野国特産物産表	明治10年	1877		群馬県行政文書〔「御巡幸(上奏書、北陸東海御巡幸)」〕	A0181AOM	1947		写真パネル	全
⑤	覚(質代金子1250両) *ほか1通有	慶応2年	1866	11月	黒岩英夫家文書	P8311	No6957	1通	複製	全
⑥	慶応記聞三十二 *渋澤成一郎日記(鳥羽・伏見の戦い従軍記)より	慶応4年	1868	2月～	赤堀恒雄家文書	P8902	No96	1冊	複製	全
⑦	官版立会略則 *版本(青淵渋澤栄一述、大蔵省、御書物所紀伊國屋源兵衛)	辛未(明治4年カ)	1871	9月	勝山敏子家文書	P8702	No3368	1冊	複製	全
⑧	〔江原芳平宛の渋沢栄一書簡〕*105mm	大正4年	1915	1月19日	江原毅家文書	P0113	No1097-1	1通	複製	全
⑨	〔江原芳平宛の渋沢栄一書簡〕*75mm	大正4年	1915	2月16日	江原毅家文書	P0113	No1097-2	1通	複製	後期
⑩	上毛孤児院月報 第162(合本11号、自153号至162号)	大正7年	1918	5月12日	社会福祉法人上毛愛隣社文書	P0403	No11-10	1冊	写真パネル	全
2 製糸業の近代化 ～前橋製糸場・富岡製糸場・新町屑糸紡績所～										
⑪	御産物生糸取扱日記	慶応2年	1866	4月	松井家旧蔵文書	P01013	No49	縦1冊	複製	全
⑫	英国領事代理御名代御旅宿日記	明治4年	1871	5月	松井家旧蔵文書	P01013	No201	縦1冊	複製	全
⑬	上野国勢多郡前橋町絵図面 *彩色、縦277cm×横696cm	文政4年	1821	1月	勝山敏子家所蔵文政4年前橋町絵図	P8701	No1	絵図1舗	写真パネル	全
⑭	〔写真〕(明治11年明治天皇行在所となった前橋生糸会所) *縦26×横20cm				勝山敏子家文書	P8702	No30	写真	写真パネル	全
⑮	〔廃藩置県の達書〕(前橋県設置)	(明治4年)	1871	7月	勝山敏子家文書	P8702	No8-2	切1通	複製	全
⑯	還啓之節御通覧ノ大渡製糸場沿革概略等皇太后宮大夫宛申上	明治12年	1879	8月1日	群馬県行政文書(皇太后宮伊香保行啓書類第一)	A0181AOM	79		複製	全
	参考資料:勝山製糸場(前橋製糸場) *宮内庁書陵部図書寮文庫蔵「各種写真 第3号」より	明治12年	1879		「群馬県史」資料編2 3 口絵			写真	写真パネル	全
⑰	速水堅吾履歴抜萃 甲号 自記(罫紙墨書、天保十年より明治十六年十二月末日まで記す)				速水益男家文書	P8315	No1	縦1冊	写真パネル	全
⑱	「小野組持前橋大渡製糸場書類」より尾高惇忠大属への通達	明治7年	1874	11月28日	群馬県行政文書〔小野組関係書類(富岡製糸場・前橋製糸場他)〕	A0384AOG	126 4-1		複製	全
⑲	〔新町屑糸工場開業式祝辞〕 *写	明治10年	1877	10月20日	高橋辰巳家文書	P8109	No374	罫1冊	複製	前期
⑳	〔通達〕(屑糸紡績会社社下ノ儀二付)	明治15年	1882	12月22日	根岸孝一家文書	P8419	No1288	罫1冊	複製	後期
㉑	〔書簡〕(西部委員選出につき委員会来月4日開会案内)	(明治26年)	1893	3月31日	三俣經久家文書	P00814	No401	切継1通	複製	全
	参考資料:新町屑糸紡績所 *宮内庁書陵部図書寮文庫蔵「各種写真 第3号」より	明治12年	1879		「群馬県史」資料編2 3 口絵			写真	写真パネル	全
3 東京瓦斯(ガス)局と鉱工業 ～高崎炭田・煉瓦工場・中小坂鉄山～										
㉒	乍恐以書付奉願上候(大砲吹立用石炭根小屋より出炭の用意ある旨)	文久3年	1863	10月	横山雄二郎家文書	P8203	No283	1通	複製	全
㉓	北第五大区拾三小区上野国片岡郡石原村耕地絵図面 *39.3cm×56.2cm	明治8年	1875	10月	片山紀道家文書	P9311	851-2-4	1舗	写真パネル	全
㉔	褐炭借区開坑増区願 *奥書・絵図有	明治20年	1887	9月26日	片山紀道家文書	P9311	No583	罫1綴	複製	全
㉕	〔伊勢勝煉化石工場関係書類綴〕	明治17～24年	1884～91		片山紀道家文書	P9311	No723	罫1綴	複製	全
㉖	鉄山開拓願(中小坂村金久保鉄山)	明治5年	1872	11月14日	群馬県行政文書〔鉱業(「鉄山借区書類」、中小坂村字金久保鉄山、群馬県・熊谷県)〕	A0181AOM	14		写真パネル	全
㉗	金久保山鉄山借区譲渡受願(由利公正・三浦安)	明治9年	1876	10月3日	群馬県行政文書〔鉱業(「鉄山借区書類」、中小坂村字金久保鉄山、群馬県・熊谷県)〕	A0181AOM	14	罫1綴	複製	全
	参考資料:中小坂鉄山 *宮内庁書陵部図書寮文庫蔵「各種写真 第3号」より	明治12年	1879		「群馬県史」資料編2 4 口絵			写真	写真パネル	全
4 日本鉄道会社と渋沢栄一										
㉘	〔鉄道仮会社より別紙報知の件〕*鉄道建築願有、「群馬県」入朱罫紙	明治14年	1881	6月29日	土屋喜英家文書	P1103	No351	罫1綴	複製	全
㉙	朝野新聞附録(日本鉄道会社出金人名)	明治14年	1881	5月21日	池田三滋家文書	P00901	No71	1通	写真パネル	全
㉚	〔日本鉄道汽車発着時刻乗車並諸荷物賃金略表・前橋駅待合所鉄線亭開店広告〕*版	明治17年	1884	10月15日	伊藤泉家文書	P8414	No211-13	2枚	写真パネル	全
㉛	群馬県管内上野国全図	明治17年	1884		群馬県行政文書(群馬県管内上野国全図)	A0387B0G	2550		写真パネル	全